

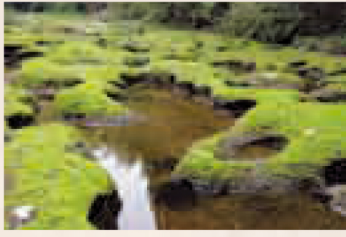
# 真米甌穴群

まごめおうけつぐん

霧島市の地形は、平成十九年八月号で紹介しましたように、火山活動とその後、の流水作用によって形成されました。

その特徴としては、カルデラ台地をえぐる深い溪谷や甌穴、落差のある滝が多く見られることです。

今回は、その中でも最長かつ多種多様な形態の甌穴が見られる「真米甌穴群」を紹介します。



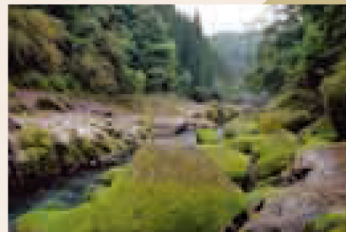
甌穴がつながり段差を形成

国道223号沿いにある塩浸水力発電所から上流に約4km続いています。

## 一、甌穴はなぜできるの？

甌穴は水流が渦巻いて、河床にあつ

た石の塊が数千年から数十万年の長い年月にわたって回転し、河床の岩に凹みを生じさせ次第に穴が大きくなり、その中に落ち込んだ石の塊がさらに内部で渦を巻きできあがったものです。



カルデラ台地の下部の凝灰岩を浸食

河床部を構成しており、岩石が非常に軟弱であるため、数千年の歳月で甌穴をつくり出していると思われま

## 二、真米甌穴群

真米甌穴群の特徴としては、甌穴の初期の段階から甌穴が発達してひとつにつながり溝を形成し、それが数段にわたって繰り返すなどさまざまな形を見ることが出来ます。中でも、断層に沿ってできたトンネルや滝、深さ三層を越す甌穴は圧巻で、その規模や甌穴の種類はほかに見られません。

次の写真は、先日甌穴群を調査した時に発見した「甌穴の赤ちゃん」です。写真をよく観察すると甌穴の中央に突き出たような石柱が見られます。

これは、甌穴に成りかけの窪みに石

が回転して、周辺部だけが削られ、中央の石が残っている状態です。



甌穴の赤ちゃん

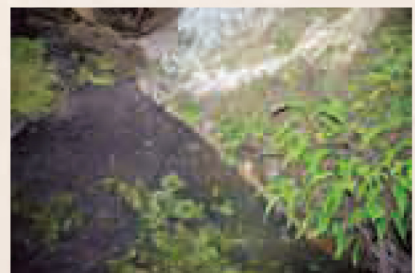
まさに、甌穴の赤ちゃんであり、甌穴の種類の中でも非常に珍しいものです。真米甌穴群のもうひとつ

の特徴としては、甌穴群の上流に、塩浸水力発電所で利用する河川の水を取り入れる取水施設があることです。この、取水施設のために下流域の河川の水が少なくなり、甌穴が水面から露出して、ほかの甌穴群に比べて安全に観察できることです。本来でしたら、写真的な観察はほとんどは、水面下であり、現在も甌穴が発達しているはずですが、水力発電所がもたらした副産物といえるでしょう。

## 三、ダイナミックな火山活動

また、甌穴群には、阿多カルデラ噴出(約十萬年前)の火砕流と始良カルデラ噴出(約二萬五千年前)の火砕流の地層が重なって露出している場所を見ることが出来ます。これは、始良カルデラが爆発した約二萬五千年前、当地域が現在と同じような溪谷であった

ことを現しています。



黒色=阿多火砕流  
灰色=入戸火砕流(始良)

また、甌穴群の下流域(塩浸水力発電所付近)には、さらに古い加久藤カルデラ噴出(約三十萬年前)起源の溶結凝灰岩を見ることができ、地質学的にも大変貴重なものとなっております。

さらには、当地域には絶滅危惧種である「カワゴケソウ」が自生しています。カワゴケソウは急流の岩盤や大きな石に固着して生育しており、葉は針状で茎とともに退化し、代わって根に葉緑素を持つ非常に珍しい植物です。また、カワゴケソウの育成環境は極めて水質の良い清流の日のあたる穏やかな流れの場所に限られているため、河川の水質汚染など環境変化の指標生物にもなり、植物学的にも非常に貴重な植物となっております。

このような真米甌穴群に、一度出かけてみてはいかがでしょうか。

(文責:鈴)